

学校評価シート（自己評価）

令和5年5月30日

妙巖寺幼稚園

1、園の教育目標

仏教精神に基いて、幼児の豊かな人間性の育成と生きる力を育むことを目標に次の4つの項目を掲げる。

1. 健康な心身を育てる
2. 社会性を養う
3. 創造性を培う
4. 言葉の発達を促す

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施し、教育内容と施設設備の改善に向けて主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

- ・ 週ごと月ごとの保育のねらいを明確にし、達成できるよう努める。(毎金曜学年会・報告会)
- ・ 保育環境を整え、園児が安全に安心して生活できるよう配慮する。
 - ・ バス置き去り防止安全装置設置・園児見守り防犯カメラ追加整備・正門バリアフリー改修
 - ・ 園舎排煙窓設備改修・熱中症対策飲料提供・出欠席登録管理の完全WEB移行
 - ・ 「生き物コーナー」「ミニビオトープ」の設置等自然科学に触れる環境整備・老朽箇所更新・
- ・ 業務のICT化を推進しLINE WORKSによる職員間の情報共有と業務効率化を図る。
- ・ 職員研修の充実を図り、現代的課題に対応できる高い専門性を身に付けると共に同僚性を常に意識し職員間の協力・協働環境を整え、ライフステージに合わせ長く働き続けられる魅力的な職場を目指す。

3、評価項目の取り組み及び達成状況

評価項目	評価	達成状況
(1) 教育要領に沿った「10の姿」を念頭に置き、子どもの実態をもとに考えて教育課程を作成している。	A	教育計画が子どもの実態に沿った内容となるようLINE WORKS や終礼等において情報共有をし、具体的な子どもの姿の記録と評価を行い、それらに基づいて教育課程に随時加筆、修正をしていった。
(2) 子どもの実態を的確にとらえ、具体的な手立てを講じる。	B	日々の記録によって子どもの実態を把握すると共に保護者面談・定期的な保護者アンケート等を実施し、それらで得た情報を教育計画に活かしていった。

(3) 家庭と連携して、規則正しい生活習慣の定着を図る	B	・園便りやウェブサイトでの動画配信等を利用して、保護者に園での1日の流れの中で身に付けてほしい生活習慣の獲得を促した。 (随時電話連絡、ウェブサイト動画配信、良い子ノート他)
(4) 遊びや一斉活動を通して、考えたり、工夫したり、仲間と協力したりする姿勢を養っていく。	A	・仲間と協力する喜びを感じながら、遊びや活動を発展できるよう援助した。 (遊びの環境整備、野菜や草花の栽培、カブトムシの幼虫の飼育と観察日記、生き物コーナーでの情報発信 他)
(5) 考えたことを言葉で表現し、心豊かな人間関係を育む。	B	・豊かな語彙を身に付け、言葉を使ってものごとを認識し、感じたことを言葉で表現しながら、豊かな人間関係を築いていけるよう援助した。 (絵本の読み聞かせ・絵本の毎週貸出し・園だより等でのおすすめ絵本の紹介・礼拝指導・各行事等)

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・教師一人一人が日々の保育の中でしっかりと記録を取り、共有し、常に課題を洗い出しながら教育内容の質的向上を目指すことができた。 ・保護者との情報共有や連携の重要性を認識し取り組みも進めてきたが、コロナ禍で交流の機会が制限されたこともあり、まだ十分な成果を上げているとは言えない。 ・また、園バスでの置き去り事故や不適切保育問題等を受け、保育方法、安全対策、設備や安全マニュアルの見直しを進めることができたが、施設設備面の整備等はまだまだ十分とは言えない。 ・今後も客観的に自らの教育、保育を振り返り、課題を見つけて取り組むことで、さらに充実した実践ができることと思われる。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全対策	<p>出欠席と遅刻の連絡、バス・預かり保育の予約及びキャンセルについて園独自のシステムを構築し、WEB 管理を導入したことで登降園管理の正確性は向上したものの、保護者による送り迎え（早迎えを含む）と朝夕3台7便のバス送迎園児の登降園にタイムラグがあるため、万一の災害等の場合の在園人数のリアルタイム管理に課題がある。これらに適切に対応するためにも ICT 技術（IC タグ等）を利用した登降園管理システムの導入が望まれる。</p> <p>施設設備・遊具等の老朽化による事故等を防ぐために、年次計画に基づく適切な更新を図る。</p>

<p>情報公開・個人情報管理</p>	<p>さくら連絡網、園 HP の保護者ページ、園便りやお知らせ、園公式 HP、保育参観日などを通して保護者や地域の方々への情報公開に努めているが、まだ十分とは言えない。引き続き発信の仕方を工夫していきたい。また、個人情報の適切な管理、廃棄等に努めているが、十分とは言えない部分がある。文書データのデジタル化と安全性の担保されたサーバーでの一元管理を目指したい。</p>
<p>自己評価・研修</p>	<p>自己点検、自己評価の課題をクラスや学年ごとに相互に見直し、定期的に情報交流する。毎週必ず学年会を実施し、金曜日の終礼で報告・共有するようにする。</p> <p>不審者対応、保護者対応、登園しぶり、発達支援、ジェンダー平等など様々な現代的な課題に常に適切に対応できるよう年間計画で研修日を設定し、職員の研修環境をさらに整えていく。</p>
<p>指導計画の編成</p>	<p>新指導要領を丁寧に読み込み、その内容に基づいて、子どもの実態に即した指導計画を作成できるよう、既存の指導計画に加筆、修正をし、よりふさわしい編成としていきたい。</p>
<p>保護者や地域との連携</p>	<p>より良い教育、保育ができるよう保護者や地域との連携のチャンネルを増やしていく。</p> <p>(御霊祭りや運動会、発表会等の行事へ招待・保育公開・評価アンケートの実施・地域の行事へ参加等)</p> <p>幼小の連携を密にして、就学を見据えた保育環境を整えていく。</p>